富士山学校科学講座および高所順応トレーニングの 12年間の実践の歩み

浅野 勝己 (筑波大学名誉教授)

1. はじめに

わが認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会の使命の一つとして、社会への教育活動の一環をになう為に2006年6月に”富士山学校科学講座”の開講を企画した。その後、2017年に至るまで総計15回にわたり大學生および社会人を対象として実施してきている。

高所順応トレーニングは2008年8月以来2017年に至るまで総計9回にわたり高峰登山者およびヒマラヤトレッキング隊員に対して実施してきている。

これらの活動について発足以来12年にわたる実践の歩みを報告したい。

2. 富士山学校科学講座—総計 15 回—

1) 2006年6月に第1回を東京新宿アイランドウイングで三浦雄一郎副理事長の“エベレストへかける夢、究極のアンチエイジング”および小生の“登山の健康への效用”の2題の講演会に約50人の聴衆を迎えて開講することが出来た。

2) 次いで同年7月には山頂での測候所見学者32人に小生より高山病の講話を行った。

その後、12月までは以下の4氏による講座が都内の会場で約30人の参加者に対して行われた。

3) 村山貢司氏 — きっと役立つ山の天気入門

4) 畠山史郎氏 — 越境大気汚染と日本

5) 岩坂泰信氏 — 黄砂—その謎を追う—

6) 片山葉子氏 — 富士山の微生物

7) 2007年8月に測候所見学者25人に対し、また、

8) 2009年8月に測候所見学者22人に対し小生より高山病の講話を行った。

9) 2010年8月には江戸川大の学生15人および横浜市立大の学生20人の測候所訪問にさいし、2007年以降の研究成果の一端を大気化学および高所医学の面より解説した。すなわち三浦和彦氏、永淵修氏、小林拓氏、村上祐資氏および小生が熱心な聴講の学生に向けて話題を提供した。

10) 2012年8月に2回目の横浜市立大の学生29人の測候所訪問がなされた。これに対し大気化学の研究結果

について皆巳幸也氏より、また高所医学について小生より解説した。

11) 2013年8月にはヒマラヤトレッキング隊10人の山頂での順応トレーニング実践者に対し高山病の機序と予防策について解説した。

12) 2014年8月に3回目の横浜市立大の学生26人の測候所訪問がなされた。これに対し研究成果を解説し質疑応答を行った。さらに翌日滞在されたヒマラヤ登山者10人にも同様の講話を行った。

13) 2015年8月には中高年女性登山者4人にも高山病の解説と研究成果を講話した。

14) 2016年8月には4回目の横浜市立大の学生27人の測候所訪問がなされ、講話と熱心な質疑応答が行われた。

15) 2017年8月にヒマラヤ登山者9人の順応滞在があり、高山病の講話および研究成果を解説した。

3. 高所順応トレーニングの実践—総計 9 回—

1) 2008年8月 日本山岳協会高知岳連 市村隊長以下10人、2泊3日滞在。

2) 2009年8月 日本山岳協会「埼玉岳連 烏隊長以下10人、2泊3日滞在。

3) 2009年8月 日本山岳会青年部 総員8人、2泊3日滞在。

4) 2010年7月 静岡市山岳連盟 出利葉隊長以下13人、2泊3日滞在。

5) 2013年8月 ヒマラヤトレッキング隊10人

6) 2014年8月 ヒマラヤトレッキング隊10人

7) 2015年8月 ヒマラヤトレッキング隊4人

8) 2017年8月 ヒマラヤトレッキング隊9人

9) 2017年7-8月 横濱山岳会隊員 2人

各 1泊2日滞在

4. 展望

本科学講座および高所順応トレーニングを今後さらに充実し、発展継続させていきたい。